



# ブラック・スワン食糧保障

ブラックスワン食糧保障メールマガジン 2023年05月02日配信号

## 「とうとう来てしまいました。すみません...」

もう今年が始まって4ヶ月が経ってしまいました。

皆様ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしょうか？

いよいよ私は5月、6月と海外出張を再開いたします。

サービス開始以来2年間ずーっと同じところにいた日経新聞の輸入豚肉生鮮価格が今年に入って一気に14%も上がってしまいました。

同じページの隣の記事では、`物価の優等生`であった卵がここ一年で60%も上がり、生協では前代未聞の`抽選制で卵を売る`という戦後の配給を彷彿とさせる事態が紹介されていました。

豚肉も肉類の中ではかなりの`優等生`で、それゆえこのシステムの指標価格としたのですが、我が国への最大供給国のスペインでは、まだ過去最高値を更新しております。そこで誠に申し訳ないのですが、6月からの加入価格を10%上げさせて頂くことになりました。

ただ5月は勿論、6~12月更新のお客様も、今月中に更新予約という形でお手続きを頂ければ、旧価格を適用させて頂きますのでご安心ください。

さてこれらインフレの原因は、主にロシアのウクライナ侵攻に端を発するものですが、幸運にもヨーロッパは記録的な暖冬で、ガス価格も暴落し紛争前の水準に戻っています。豚肉の供給が激減したのは、エネルギー高、飼料高を予想して農家が飼育頭数を大幅に削減したことが原因と思われる。

侵攻後一年が経ち、この様な所に影響が出てしまっているわけですが、高値で売れるのであれば、農家さんも飼育頭数を増やしていくので、いずれは落ち着くかと思われる。しかしながら問題は為替です。

本日はとうとう1ユーロが15年ぶりに¥150を超える事態になってしまいました。

欧米各国とは違い、日銀はまだ金利を上げるという姿勢は見せていませんので、このまま日本だけは、現地価格が値下がりしてもその恩恵を受けることができず、高値で買う事を余儀なくされるのかもしれない。

そんな中、ブルームバーグの為替欄を見ていると変なニュースを見つけてしまいました。アリババ創業者の馬雲（ジャック・マー）氏が1日、東京大学の「東京カレッジ」の客員教授に就任した。という記事です。

[www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-05-01/RTYIYOT0AFB401?srnd=cojpv2](http://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-05-01/RTYIYOT0AFB401?srnd=cojpv2)

しかも講演テーマは「**持続可能な農業と食料生産**」...

なんとも不気味な動きです。

彼は以前共産党指導部を批判し、激怒した共産党指導部から逃げるように国外に脱出していました。

盟友である孫正義氏の庇護のもと、銀座や熱海を中心に、日本に潜伏していた様です。

先月はいったん中国に戻ったと聞いていましたが、今月から東大で講演する様です。

更に記事によると、馬氏はアントとアリババの幹部に対し、「中国への帰還にこだわらないよう伝え、離れていても彼らの成功に尽力している」と強調したと関係者は語っているそうです。

何かお祈りメールみたいですが、つまりは「身に危険が迫っているので、もう中国には帰らない」という事なのでしょう。

以前にも紹介しましたが、ITで大成功したマイクロソフトのビル・ゲイツが全米一の個人農場主になっていたり、アマゾンのジェフ・ベゾスも農地を買いまくったりしているのは

